

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年2月28日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670200700
法人名	社会福祉法人 ひまわり会
事業所名	グループホーム わかまつ園
所在地	鹿児島県薩摩川内市高江町1653番地1 (電話) 0996-23-1201
自己評価作成日	平成31年1月29日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年2月16日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になってもその人が持ち続けている自尊心を尊重され、その人の「望み」を引き出し、かなえる支援を皆で一緒に実現していくことこそ、グループホームの本質との思いから、「その人らしく」を基本理念とし「自尊心の尊重」「自発的行為の重視」「役割をもった生活」「家族の心理的理解」の運営方針のもと、職員は根拠ある知識と技術に基づき、ケアの専門職として努力を重ねております。

当ホームは川内川下流の高江広潟にあり、柳山を中心に緑豊かな山々と、穏やかで広々とした田園の風景など心休まる風景のなかで落ち着いた暮らしができる環境です。また、地域に根付いた施設となるよう、地域の行事に参加し、交流することで、地域の人々の認知に対する理解が進み、たとえ、認知症になっても「この地域で暮らしたい」と感じられるような環境作りを行っております。最後に昔話の締めくくりのように「そして、いつまでも幸福に暮らしました」となりますよう、日々の支援を工夫を凝らしながら行っております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

薩摩川内市の川内川下流高江地区の位置し、周辺には田園が広がり四季を感じる事ができる環境下にある。敷地内には母体法人のデイサービスや在宅介護支援センターも併設し、合同で災害訓練をするなど災害時の協力体制は出来ている。

地域とは自治会に加入し、地域の行事には積極的に参加している。ホームの行事にも地域住民の参加がある。また災害時の協力体制も地域との連携は出来ている。管理者は地区の会で認知症講和や口腔ケアの話をするなど地域貢献にも努めている。ホームは地域の一員として日常的な交流は出来ている。職員の離職率も低く、資格取得への助成支援もある。

管理者は職員から、「職員の意見をよく聞いて行動力も有る」と、信頼関係も出来ている。

管理者と職員が、利用者のケアに対して同じ方向性を持ち「介護されたい」ホームを目指し、日々理念を意識しながら実践に繋げている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	施設内に掲示し、毎朝、申し送り時に唱和し、常に念頭に置き業務を行うようにしている。また、ミーティング時に理念に基づいたケアが出来ているかの振り返りを行っている。	理念は玄関やホールへの掲示や朝礼時やミーティング時に唱和し、職員の意識付けや共有で実践に繋げている。管理者は、現状にあった理念にと見直しを検討している。利用者の尊厳や思いを大切にし、より良い生活ができるよう理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の住民の方と積極的に地域交流を図るために、地域の夏祭りや文化祭、一斉清掃などにも参加している。また事業所の行事に地域の方へ参加のお誘いをしたり、事業所に門松づくりに来て頂くなど、相互に交流が盛んである。	地域の自治会に加入して、地域の清掃や夏祭りに参加している。中学生の職場体験や保育園児との交流も受け入れている。管理者は地区の会で、認知症講和をしたり、口腔ケアの話をする等地域貢献にも努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議でも地域の方に認知症について理解して頂く機会があり、方法を伝えている。管理者は、地区コミュニティの運営に参加し、認知症やホームについて情報を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で常に報告を行い、意見交換ができ、行政を交え話し合うことで、家族や行政、地域の担当者の方とも良好な関係を築けている。地域に根差した明るく開放的な施設を目指しサービスの向上へと繋げている。	2ヶ月毎に定例化された会議である。ホームの現状報告や行事・ヒヤリハット報告を行い、参加者との活発な意見の交換の場となっている。職員は会議の内容を共有し、ミーティング等で話し合い業務の改善やサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市担当者の参加があり、事業所の状況を報告し、理解、把握して頂き、ご意見を伺い、サービスの質の向上に繋げている。	市担当者とは、日常的に介護保険の手続きや相談を行い助言・指導をもらっているなど、協力体制は築かれている。市主催の研修会へ積極的に参加し協力関係も築かれ、助言や意見はサービスの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務の中で拘束については身体拘束ゼロを常に心がけるよう、年1回は施設内研修で毎年基本的な身体拘束に関する知識の共有と事例を検討している。また園内の身体拘束廃止委員会で話しあい、その結果、身体拘束に関する職員の意識は日々高まっている。	マニュアルを整備し、ミーティングや勉強会での研修や意見交換で意識を高め、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。日中は施錠せず、見守りや会話また寄り添うようしている。不適切な言葉遣いについては、職員同士で指導し合うなど、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	尊厳を大切にしたいかかわりについて「その人らしく」をキーワードにした研修を重ねることで、虐待防止の実践を勉強した職員が常に心掛け、業務にあたることで、日頃から入居者様の尊厳を守り、共に支え合っていく事が虐待の防止に繋がると考えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見制度について、当該事業所では利用する人はいないが、年に1度権利擁護に関する勉強会を開き法令遵守等の確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族に見学に来て頂き書面を通して説明を行っている。契約時には、十分に説明し、不安や疑問、意向を聞きながら、納得を得ている。又、制度改正時は、その都度説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に意見の出やすい雰囲気作りに努め、利用者様の思いを汲み取るように努めている。また、面会時等にご家族としっかりとコミュニケーションを図り、家族の要望を伺い、その思いを職員が共有し、個々に見合ったケアを行えるように日々努力をしている。また、運営推進会議等での意見交換により、利用者の要望をかなえるための対策についても検討している。	利用者からは日々の会話や様子から思いや意見を把握している。家族からは面会時や運営推進会議・家族会で意見を聞いている。家族へは2ヶ月毎に便りを送り状況を報告している。出された意見は職員で話し合い、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の運営会議や月に2回のミーティングを行い職員の意見を取り入れている。又、管理者面接（2回/年）や園長面接（1回/年）を行い、個々の意見が運営に展開できるようにしている。	日頃から話しやすい雰囲気作りに努めている。運営会議やミーティング時に職員の意見や提案を聞いている。資格取得の支援もある。出された意見や提案は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や自己申告書を基に面接を行い、個々の意見や提案について把握に努め、職場環境の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の自己啓発に努め、自主的に受ける機会がある。研修後の復命を作成し、回覧やミーティング時に報告を行い情報の共有や意欲の向上を図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者がグループホーム協議会の理事に所属し、他のグループホーム管理者と情報交換を行い、また協議会主催の相互勉強会に参加するなど、学び取り入れる事は、積極的に勉強し、当施設のスキルの向上につなげている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学をして頂いたり、事前面談で生活状態を把握することで、十分なコミュニケーションを図り、不安や要望を汲み取り、安心の確保に繋がるように図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、施設見学、面談や電話などで、これからの生活概要や料金面など不安に思われる事や要望をお聞きし、丁寧にわかりやすく説明する事で、良好な関係が構築できるように心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態を見極め、ご本人やご家族の意向を十分に把握し、他サービスの利用の可能性も検討するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩と共に暮らすという姿勢を忘れず、ご本人のペースや意思を尊重し出来る事や出来る可能性を探し、互いに支え合える日常を送れるように尽くしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にできることは行って頂き、共に支えあう関係であるよう、こまめな連絡や面会のきっかけとなる機会を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の催し物に参加したり、園内行事へ招待したりと関係継続の支援を行い、面会時はゆっくりと過ごして頂き、継続的な交流が図れる様に工夫している。	家族や友人・知人の来訪時にはゆっくり過ごせるよう工夫している。地域の行事への参加、買い物に出かけたりしている。家族の協力で外出や墓参りに出かける利用者もいる。ホームの行事にも地域の馴染みの方が参加するなど、馴染みの人や場との関係継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然な関係が出来るよう、人間関係を把握し、無理な介入はせず、見守りを行い、環境を整備し、孤独な思いをせぬように心を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され、入院や他施設に移られた際には、情報提供を行い、その後の様子把握の情報交換に努め、これまでの関係を大切にしたい取り組みに尽力できるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中の、会話、表情や行動等から、ご本人の思いを汲み取り、職員間で共有し、意見を出し合い、最後までその人らしく過ごせるように、意向は確認している。困難な方は家族様からも情報を頂き、ご本人の思いに添えるように努めている。	日頃の生活の中から、利用者の思いや意向の把握に努め、尊厳やプライバシーに配慮しながら、その人らしい暮らしを支援している。家族からの情報も得ているが、それでも困難な場合には、本人本位に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からお話を伺い、事前調査や経過シート等により、若いころから現在までどんな生き方をされてきたのかの情報収集を行い、今までの生活が継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム、心身の状態を把握し、小さな変化も気付けるよう注意して、スタッフ各々が持っている情報を集めて、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画のモニタリングを月に1～2回のミーティングで行っている。その際、目標が現状に即しているのか、もっと良い方法がないのか、随時見直しを行い、個々の意向を十分に反映出来る様にケアについてチームで密にディスカッションを行いながら作成している。家族様にも要望を伺い変更がある場合は検討し介護計画を見直している。	本人・家族の意向を把握し、主治医やモニタリング時の意見を聞き、計画書を作成している。本人や家族の出来る事を取り入れたプランである。3か月毎のモニタリング、6ヶ月毎の定期的な見直しに加え、現状に変化があれば、その都度見直し実情に即した支援計画である。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルにケアの実践、結果、バイタルや心身の状況に気づきなどを記入し、定期的に評価を行い職員間で情報の共有を図っている。また、別に連絡帳をつくりケアの方向性の統一に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	インフォーマルサービスや地域のボランティアの力を借りながら、ご本人やご家族の思いに答えて出来るように体制を整えている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、園の避難訓練等に自治会の方が参加してもらうことで、地域と施設の双方が安全で安心な関係であることを確認している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院への受診は基本にご家族に対応して頂けるようお願いしている。また、訪問看護との連携により体調不良時の連絡はスムーズに主治医へ報告があがり、適切な処置が出来るよう体制が整っている。	本人・家族の希望する医療機関での受診を支援している。定期的な受診や往診、また訪問看護が実践されている。他科受診は家族支援となっているが、家族が同行出来ないときには職員が同行し、受診結果を家族へ送るなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、定期的に訪問看護師が来園し、利用者の状態の報告を行っている。日々の関わりの中で、状態の変化や気づきは訪問看護に随時連絡し、指示を受け適切な医療や看護を受けられるように支援している。訪問看護師とは24時間いつでも連絡が取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、情報提供（利用者医療情報、アセスメント表）を行い、書面と口頭で認知機能、生活状況、個人的要因を詳しく伝えている。また、ご家族と十分に話し合い、病院関係者と情報交換、連携を密に行い、納得できる治療を受け早期に退院できるように対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化に伴う介護についての同意書」にて、重度化した場合における対応の指針を説明し、理解を頂いている。また、主治医と連携を図りながら、家族、職員全員で話し合い、更に重度化した場合の対応を図っている。	入居時に「重度化した場合における対応の指針」を説明し、同意書を交わしている。利用者が重度化した場合、主治医から説明があり、関係者や家族と十分な話し合いをして可能な限り希望に沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	園内研修で急変時や事故発生時の対応や、AEDの操作方法を学んだり、園外の救命講習への参加をし職員の啓発を図っている。さらに、救急時対応マニュアルを作成したり、ホーム内壁面に緊急時対応表の掲示するなど対策を行い急変時や事故発生に備えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署立会いで年2回の法人全体の合同避難訓練や地域住民協力で行う夜間火災通報訓練を行っている。原子力災害による避難訓練も市や県との協力体制や避難訓練書の作成も行っている。</p>	<p>消防署立ち会いで法人と合同訓練を年2回、ホーム独自の避難訓練を夜間想定で年2回行っている。地域住民の参加もあり、協力の内容も決めておおり研修会や勉強会も予定している。避難場所の確保は出来ており、備蓄の整備の他玄関入口には個々のヘルメットやネームプレート等も準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「その人らしさ」を尊重する為、接遇やプライバシー保護の園内研修を毎年行っている。また日常的に「自尊心の尊重」を心掛けるよう、居室へ入る時のノックや声掛けで了解を得、入浴時や排泄時の羞恥心に配慮したケアなど職員間で話し合いながら最適な対応が図れるようにしている。	利用者の状況に合った、その時に合った勉強会や研修会を毎年行っている。尊厳を損ねる言葉遣いや対応は行わない様努めている。居室やトイレ・入浴にはプライバシーの確保や羞恥心に配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	正面よりやさしく視線を捉え、一人ひとりに寄り添った声掛けを行い、ご本人の思いをゆっくり傾聴し、表面に現れない思いを汲み取ることで、希望に添える暮らしが送れ、ご本人が「その人らしい在り方」が決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはありますが、クローズドクエスションとオープンクエスションを使い分け、常にご本人の希望をお聞きしながら、その人の思いとペースに配慮した支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入浴時の着替えは、一緒に服を選び、季節にあった服を提案し楽しんで貰っている。また、定期的に散髪や髪染め等を行い、入居前から続く、その人らしいおしゃれが出来るように支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、おしぼりの準備やお膳拭きなど食事前のお手伝いはもちろん、普段の会話から好きな食べ物や得意だった料理をお聞きし、それを献立に反映したり、行事食で季節を表すなどを行い、利用者職員が笑顔で食卓が囲めるように支援している。	利用者の嗜好や形態を把握し、調理担当者がメニューを決めている。季節の食事や行事食、弁当持参での花見など食事が楽しめるよう工夫している。力量のある利用者には、お盆拭きテーブル拭きなど手伝ってもらっている。外食は家族の協力支援である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食材の形状、硬さ、味付けや量を考慮し、水分・食事の摂取量は常に記録し体調管理に役立っている。また、食事摂取が上手くできない利用者に対しては介助を行い、好みの食べ物を取り入れるなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人ひとりの力量に応じ口腔ケアを行っている。専門的な見地が必要な方は訪問歯科を勧め、それぞれの状態にあった支援を歯科医師と連携しておこなっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレに行きたいサインを見逃さないよう心がけ、個々にあった対応に努めている。また、夜間帯はセンサーによりトイレ誘導介助を行っている。	排泄チェック表が有り、利用者それぞれの排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。言葉掛けや対応で、羞恥心や不安の軽減に努めている。食事や水分の摂取にも配慮し、便秘の予防にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レク時に便秘改善体操を行ったり、排泄に適した姿勢の介助や水分や繊維の多い食材活用などを行い排便を促している。薬の副作用や習慣的に便秘な方には医療と連携し対応をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	その人の身体状態に合わせ、その日の体調や状態を見極め、週3回ゆっくりと入浴を楽しめるように努め、拒否がある時はムリに行わず、時間や日を改めて調整を行い、たのしい入浴が出来るように支援している。	基本的には週3回の入浴であるが、体調や希望に応じて柔軟に対応している。入浴出来ない時には、清拭や足浴で清潔保清に努めている。温泉に家族で行かれる方もおられる等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムが出来るよう一日の日課を作り、各々の生活習慣を把握し、体調や気持ちに配慮を行い、ゆったりと安心した環境を整え、安眠や休息ができるよう配慮した見守りや声掛けを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬綴りを作る事で、職員は各利用者様の薬の効用や副作用を理解する様に努めており、訪問診療時には職員が付き添い、薬の変更の理由等を把握し、連絡帳や申し送りなどで職員間の情報共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の自発的な行為を尊重し、個々の生活歴や得意な事を考慮しながら、職員と共に日々の生活を「ありがとう」の感謝の言葉を言い合うことで、張り合いのある一日が過ごせるよう図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に配慮しながら、屋外にて日光浴や園周辺を散歩したりしている。また、地域の催物に参加したり、園の行事での外出やご家族との外出、一時帰宅、旅行など自由にできるように支援している。	日常的には、天候や健康状態に配慮して、ホーム周辺の散歩や買い物に出かけている。年間の外出計画でも初詣・花見・遠足・ソーメン流しに出掛けたり、地域の行事にも出掛けている。家族の協力支援で外泊や旅行に行かれる方もいる等、日常的に外出の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族の協力を得て、ご自身でお金を所持し、園内外で職員と一緒に自由に買い物ができるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望があれば、いつでも電話が出来るき、気持ち良く話して頂ける体制を整えている。手紙や葉書を書かれたら、確実に届くように支援をおこなっている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>過度の冷暖房は行わず、自然光を取り入れた室内からは四季折々の田園風景が眺められ、園内に旬の飾りつけなどを行うことで季節が感じられるよう配慮している。イベント時に撮影した写真を壁に貼り、思い出を共有できる工夫や明るく家庭的な雰囲気作りに心がけ、不安や混乱を招かないように室内の環境整備には十分配慮している。</p>	<p>おおきな窓からはその季節の田園風景が広がっている。明るく広いホールや廊下は清潔感や室温・湿度にも配慮されている。壁には行事での写真が飾られ、ソファ・テーブル・椅子があり、ゆったりとくつろげる様になっている。利用者が個々に好きな場所で居心地よく過ごせるよう工夫されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間であるホールや食堂に椅子を置き、いつでも好きな時間にテレビを見たり、気の合う人同士で話したり、自室で過ごされたりと自由に生活できる様に工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のいい居室に出来るよう、ご家族にご協力頂き、入居時には大切にされていた物や好みの物を自由に持ち込んでもらい、好きな花や好きな絵を飾ったりし安心して過ごせるように支援している。	トイレは各居室に設置されている。窓から見える田園風景は、四季の変化を感じさせてくれる。入居時に使い慣れた家具や物、テレビや写真・花等を持ち込まれている。本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	無理な体勢をとることなく、誰にでも公平に利用できるように、簡単ですぐわかるよう環境整備を工夫し、危険に繋がらないように設備で補えない事は職員が補い、安全で自立した生活が送れるように支援している。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない